

平成30年度 学校法人静岡理工科大学 星陵中学校・高等学校 自己評価 学校関係者評価

どのような学校を目指すのか		校訓「誠実な心でことにあたる 友情の和を広げる 厳しさを自ら求める」の実践をとし、地域社会の期待に応える人材を育成する				<h1 style="text-align: center;">学校関係者評価</h1> <p>※評価は、以下の基準に従い、各項目ごとに5段階で客観的に評価してください。</p> <table style="float: right; margin-top: 10px;"> <tr><td>5</td><td>:</td><td>最も良好</td></tr> <tr><td>4</td><td>:</td><td>ほぼ良好</td></tr> <tr><td>3</td><td>:</td><td>普通</td></tr> <tr><td>2</td><td>:</td><td>やや不良</td></tr> <tr><td>1</td><td>:</td><td>不良</td></tr> </table>										5	:	最も良好	4	:	ほぼ良好	3	:	普通	2	:	やや不良	1	:	不良
5	:	最も良好																												
4	:	ほぼ良好																												
3	:	普通																												
2	:	やや不良																												
1	:	不良																												
基本方針		1 時代が求める教育を展開する 2 高大連携、高専一貫教育を推進し、法人内学校との連携を深める 3 評価される進路実績作りを行う 4 健全な運営体制を維持する																												
昨年度の成果と課題		本年度重点目標		本年度重点施策		達成状況																								
◎「星陵ラボ」を始めとする活動により、時代が求める教育を展開した ◎法人内各校へ優秀な生徒を送ることができた ◎質・量ともに満足できる進路実績をあげることができた ◎学業成績優秀な生徒の入学と募集定員の確保ができた ◎カナダ・オーストラリアの学校と相互交流を行うことができた ◎ICT教育・英語教育などの展開により、21世紀型スキルを育成した ◎「主体的・対話的で深い学び」の学習形態のあり方を研究し実践した		【入口目標】 ◎募集定員を獲得し、地域のニーズに応える 【中身目標】 ◎アクティブラーニング・グローバル教育・ICT教育 新入試改革・高大接続改革・法人内連携教育 【出口目標】 ◎文理にバランスの取れた人材の育成		◎健全な運営体制の維持と施設設備の充実を図る ◎時代にあった質の高い一貫教育を展開する ◎地域から評価される進路実績作りを行う ◎新大学入試制度に対応する教育を展開する ◎グローバル教育を展開する ◎21世紀型スキルが身につく教育を展開する ◎世界に発信できる授業を研究する		目標達成 目標達成 目標達成 目標達成 目標達成 目標達成																								
評価項目	具体的目標	具体的方策		自己評価		成果・次年度への主な課題		学校関係者評価								平均														
				評価	平均			評議員A	評議員B	評議員C	評議員D	同窓会	地域住民	地元企業関係者	教育関係者															
総務部	アクティブラーニング・グローバル教育・ICT教育の推進のための環境作りを実践する。	新たな留学先としてアメリカを留学候補地として訪問した。		4	4.0	次年度アメリカ留学を早急に計画する。		5	4	4	5	4	4	4	4	4.3														
		国際理解教育を深め、ICTを活用した交流を深めた。		4		海外とのやり取りができるICTの技量を向上する。																								
		21世紀型教育を展開し、広報活動に活用した。		4		教員それぞれの力量を向上していく啓蒙活動を行なう。																								
入試広報課	募集定員を確保し、安定した経営体制を維持し、地域のニーズにこたえる。	「星陵アプリ」のメリットを活かし、広報活動を行なった。		4	4.0	アプリ機能を活かした広報内容にしていく。		5	5	4	5	4	4	4	4	4.4														
		募集活動やイベントの目標を明確し、また計画的に実施した。		4		募集イベントの集客数を伸ばすための施策を打つ。																								
		本校の先進的な取り組みと成果を効果的に広報した。		4		低学年からの集客を実現し、早期から第一志望としてもらう。																								
総務課	生徒の安心の確保、学校に対する満足度を高めるため、教育環境を整える。	見学会、説明会等の中身、種類を増強・拡充した。		4	4.0	募集イベントの中身を精選し、また重層的な告知を行う。		5	5	4	4	4	4	4	4	4.3														
		式典や行事の準備を早めに行い、課内での役割分担に責任を持って行った。		4		式典時の効率化と内容の充実を図る。																								
		スクールバスの運行管理を正確に行った。		4		日課に合わせて適正な時刻でスクールバスを運行する。																								
図書課	図書コーナー構想図に基づき、授業での図書館の利用を呼びかける。	防災組織を更新し、年間を通じて防災意識を高めた。		4	2.5	生徒、職員の防災意識を高め非常時に的確な行動が取れるようマニュアルを充実させる。		5	3	3	4	3	3	4	4	3.6														
		各教科において、「図書コーナー活用年間計画」を作成した。		3		図書コーナー構想図(3年計画)の2年目として、1年目の検証をもとに、計画の実行を促し、確認する。																								
		読書アンケートを中学校・高等学校で実施した。		2		生徒の増減を鑑み、速やかに準備を整える。																								
管理課	学習環境の整備・安全の確保をする。	年度初めに学習環境を整え、停滞することなくスタートした。		4	3.5	特別棟におけるICT機器導入準備を行う。		5	3	3	5	4	4	4	4	4.0														
		他の課と連携し、新たに増えたICT機器の管理をする。		3		新規プログラムのアメリカ留学を充実させる。																								
		アメリカ・サンタバーバラを新たな留学先として拡充した。		5		ICT機器を使用した海外校との交流を充実させる。																								
グローバル教育推進課	星陵型グローバル教育環境を充実させ、グローバル人材の育成を図る。	留学生を50名以上受入、本校から70名以上を海外に派遣した。		4	4.3	校内外のグローバル教育環境を整え、実践する。		5	5	4	5	5	5	5	5	4.9														
		各種イベントで交流や留学の成果をICT機器で発表した。		4		教員の更なるスキルアップと、環境整備を行う。																								
		プロジェクトやタブレット端末を活用した授業を実践した。		3		教科の枠を超えた情報共有を推進する。																								
教務部	ICT教育・高大接続改革・主対深の学びを実践し、21世紀型スキルが身につく教育を展開する。	思考コードを活用した授業設計を行った。		4	3.5	新学習指導要領に基づき教育課程を作成する。		5	4	4	5	4	4	4	4	4.1														
		新大学入試に対応できる教科研究を行った。		4		電子化を推進し、運用する。																								
		ポートフォリオ作成を推進した。		3		カウンセリングを通して学校で可能な指導をする。																								
教育相談課	生徒の安心の確保、学校に対する満足度を高めるため、教育環境を整える。	月1回のカウンセリングを活用し専門的な知識のもと指導した。		3	3.0	別室登校許可の流れを周知徹底する。		5	4	3	4	4	3	4	4	3.9														
		別室登校生徒には配慮しながら的確な指導を行った。		3		生徒の能力や満足度の向上に貢献できた。																								
		静岡理工科大学と連携した課題研究活動を展開した。		4		学会、コンテスト、県などから表彰を受けた。																								
21世紀型スキル推進課	星陵ラボなどの課題研究活動を実施し、生徒に21世紀型スキルを育成する。	地域の課題を解決するオリジナリティある研究を展開した。		4	4.0	星陵アプリ等のICTを用いた、定期的な啓蒙活動		5	4	4	5	4	4	4	4	4.3														
		理工科大学の主張講義や、高・大の活動を校内にアピールした。		3		専門学校の模擬授業の拡充と、学生との懇親会の開催																								
		専門学校の模擬授業を普通科の生徒に実施した。		3		ICT機器を活用を検証し、効果的で効率的な利用をする。																								
教科	国語	グループ学習等のALを取り入れた実践が行われた。		3	3.5	学び合い、現場に生かしていく。シラバスのさらなる更新		5	4	3	5	4	4	4	4	4.1														
		ICTの活用としては7ヶ所のポートフォリオがよく用いられた。		4		授業実践を共有して教科指導力を一層向上させる。																								
	地公	定期試験において思考力を問う形式を取り入れた。		4	3.5	新入試を見据えた作問を研究する。		5	4	3	5	4	4	4	4	4.1														
		双方向性の高い授業を実践した。		3		ICT機器の活用方法の共有と指導法の検討を行う。																								
	数学	授業実践例を共有し、アクティブラーニング型授業を実践した。		4	4.0	教科指導力を研究・実践する場を設け授業の質を向上させる。		5	4	4	5	4	4	5	4	4.4														
		授業内でICT機器での発表、討論やグループワークを行った。		4		授業で活用できる動画や資料の収集を継続する。																								
	理科	資料作成やプレゼンテーションをとり入れた授業を展開した。		3	3.5	相互評価して振り返りを行う機会も実施する。		5	4	3	5	4	4	4	4	4.1														
		ICT機器を活用したアクティブラーニングを実践した。		4		ICT機器や学習支援ソフトの活用方法の検討。																								
	保体	ICTを活用し、グループ学習で討論や発表を行った。		4	3.5	iPadを多用し、自己の修得技術を視覚からも確認させる。		5	4	3	5	4	4	4	4	4.1														
		集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション力を育てた。		3		作業計画を一覧にし、進捗を自分で確認させる。																								
	美術	生徒自らアイデアを出し、計画的に作業を進めた。		3	3.0	ICT機器の活用を研究する。		5	3	3	5	4	3	4	4	3.9														
		多くの芸術作品に触れ、感性を高めた。		3		毛筆における運筆のリズムを硬筆の中に生かす。																								
	書道	様々な行書の古典を臨書し、その特徴を用筆や形体から理解した。		3	3.0	漢字仮名交じりの現代文を一貫した用筆の中で行書体で書く。		5	3	3	5	4	3	4	4	3.9														
		運筆のリズムを強弱・遅速・緩急の変化の中から体感させる指導をした。		3		ICT機器に関する知識を深め、より効果的に活用する。																								
英語	ICT教育を効果的に授業に取り入れ、アクティブラーニングを通して英語の4技能の育成を図る。		4	4.0	新入試により対応した英語力の育成を図るための教育法を研究する。		5	4	4	5	4	5	5	4	4.5															
	思考コードを活用し、授業計画を作成し実行した。		4		教科と実生活の関わりをさらに意識させる。																									
家庭	教科と社会との関わりを意識させた。		3	3.0	自分の考えや作品について発表する力をつける。		5	3	3	5	4	3	4	4	3.9															
	主体的に作品をつくる姿勢を培った。		3		ソフトの発展的な活用方法を考える。																									
情報	自分で考えて判断することを意識させた。		3	3.0	個人スキルの差に対応する授業展開を考える。		5	3	3	5	4	3	4	4	3.9															
	Officeの活用能力を高めることができた。		3																											

指導部	生徒・保護者の希望を叶える進路指導を実現する。	講座を抜本的に見直し、生徒個々のニーズに適合させた。	3	3.3	改革の狭間となる新高3、新高2の各々指導体制を検討する。	5	4	3	4	4	4	4	4	4.0
		新テストの試行問題を研究・分析し、指導体制を整えた。	4		中高一貫生の6年間の指導体制を検討する。									
		クラッシーを通じて、学習状況の把握に努め指導に活用した。	3		GWはじめ休日の課題に関してICTの活用を図る。									
大学進学指導課	学校いじめ防止基本方針に基づいたいじめ防止等のための取り組みをする。	いじめアンケートを3回/年間実施し、トラブルを未然に防いだ。	4	4.0	アンケートに加え生徒からの情報をとる手立てを複数用意する。	5	4	4	5	4	5	5	5	4.6
		教員・生徒に対していじめ防止啓蒙活動を会や書面を通じて実施した。	4		生徒自らが主体となった啓蒙活動も加えていく。									
		保護者対象の大学入試改革の情報提供会を新たに開催した。	4		次年度進路指導研究会を定期的に行う。									
進路課	学校推薦による就職希望者の内定率を100%にする。法人内専門学校への進学者を増加させる。	職員対象に入試動向を伝える機会を増やし、情報を共有化した。	4	3.7	講座の更なる改革を行い、進学実績つなげる。	5	4	4	4	4	4	4	4	4.1
		講座改革の検証を行い、次年度の課題を明確化した。	3		各教科の抱える課題を把握・共有し、指導を行う。									
		就職ガイダンスを通して企業が必要とする人材育成に努めた。	4		各企業の情報を集め生徒の現状に合った就職指導を行う。									
生徒指導課	生徒が主体的に活動し、外部から評価される学校となる。	法人内専門学校の魅力をアピールし入学者数を増加に努めた。	3	3.5	進路説明会を通して法人内専門学校の情報を生徒・保護者に伝える。	5	3	4	5	4	4	4	4	4.1
		いじめ啓発の生徒指導通信の発行や集会を行った。	4		生徒の安全を図るため、情報を収集する。									
		巡視の強化を図り、生徒指導・交通指導を充実させた。	3		スマートフォンの正しい使用方法を更に浸透させる。									
保健体育課	各活動を通して自発的・自主的な活動を実践する能力を育成する。	生徒主体の体育祭及びマラソン大会などで望ましい人間関係をつくった。	4	3.5	体育祭実行委員を早い時期から招集し、具体的な指導を綿密に行う。	5	3	3	5	4	4	4	4	4.0
		体育施設の安全確保と有効利用した。	3		高大接続改革への対応を中学校段階から推進する。									
		探究学習・課題研究をPDCAサイクルで実施する。	4		中高の6ヶ年を通した「知」「徳」「体」「美」の育成のあり方を再検討する。									
中学部	①「知」「徳」「体」「美」のバランスの取れた人間を育成する。②21世紀型スキルを育成する。	主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行う。	3	3.5	新大学入試情報の収集に努め、保護者に伝達する。	5	4	3	5	4	4	4	4	4.1
		クラッシーを通じて、学習状況の把握と生活状況の確認。	4		生徒個々の活動実績をまとめさせる。									
		進路を明確にして必要な学力を身に付ける。	3		様々な入試形態に対応できるように活動実績を増やす。									
高校1年部	新大学入試に向けての基礎作りを実践する。	ポートフォリオに活動実績を積み上げる。	4	3.5	模擬試験の結果を分析し、弱点の強化に努める。	5	4	3	5	4	4	4	4	4.1
		授業・講座の内容の充実を図り、学力を向上させる。	3		指導担当者と担任との連携が上手く取れていた。									
		模試の結果を分析し、効果的な受験指導を展開する。	3		入試形態の変化に十分対応できていた。									
高校2年部	目標実現に向けて、個々に必要なものを明確にし、実績を積み上げる。	模試の結果を分析し、効果的な受験指導を展開する。	3	3.5	入試形態の変化に十分対応できていた。	5	4	3	5	4	4	4	4	4.1
		新しい入試形態に合った指導と準備を計画的に実施する。	4											
		平均		3.5										4.1

外部評価委員のコメント

- ・星陵中学校・高等学校は、生徒の可能性や新たな時代に相応しいグローバル教育目標を定め、高い教養と人間の育成・個性を生かす教育に対して高く評価を致します。
- ・国際社会に向けて身につけるグローバル教育プログラムの中で自らを向上させるよう、素晴らしい学習環境が整っている中で、その成果は、高い学力をはじめ地域との連携や各種大会でのスポーツ面や文化面など様々な高い評価を得ています。
- ・中学生から学ぶ環境の中でも、自ら物事に取り組む姿勢も素晴らしく、進学してからも立派な成果を残しています。
- ・グローバル教育の中で、「解なき未来」を自らの力で切り開く為には、生徒自身の真剣に取り組む努力が必要不可欠です。
- ・大きく変化する時代の中で、これまでと同様に、先生方の指導力と教育方針・方向性を見極めて行って頂けるよう期待を致します。
- ・本年度（平成30年度）、各重点目標が達成された事、大変素晴らしいと思います。
- ・新年度も、新しい課題、目標に向かって星陵カラーを出して取り組んでいただきたいです。
- ・地域に先駆けた教育を推進されている点が素晴らしく、これが生徒の成長にしっかりと反映されているかが大切なことだと思います。
- ・また進路実績での評価のみならず、この年代における人間形成にさらに力を注いで頂き、そうした事から総体的な評価もあがると思います。
- ・幅のある学力層の生徒が多数在籍する中で、ひとりひとりに目を配り、それぞれの特性に添った指導をすることは、非常に細かく根気の必要な教育になると思いますが、現在の星陵中学校・高等学校でしたら実現できると感じますし、地域のためには是非お願い致します。
- ・社会がグローバル化している中で特に必要としている調べ教育やプレゼンテーション能力の構築を早くから取り組み今まさに、目に見えての効果が出て来ていると思います。
- ・新入試制度に対する準備をいち早くからスタートして即には生徒に展開できている事は進学校として高く評価出来ると思います。
- ・一人の生徒が抱えている問題（進学、交友関係等）を担当だけでなく学校全体で共有し問題解決に取り組んでいる事は大変素晴らしいことだと感じました。
- ・生徒が大学又は社会に出てもプレゼンテーション能力は不可欠な物です。ICT機器も取り入れさらに向上されることを期待いたします。